

SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・
地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

NPO法人 地域福祉サポートちた

もくじ

| | |
|--------------------------|-------------------------|
| □北海道京極町研修..... 1P | □定例NPO現場見学バスツアー..... 3P |
| □ちた未来塾報告会..... 2P | □リレーインタビュー..... 3P |
| □フードバンクプロジェクト@ちた..... 2P | □会費納入のお願い..... 3P |
| □日本福祉大学SLバスツアー..... 2p | □インフォメーション..... 4P |
| □住民履歴書で支え合いづくり研修..... 2p | |

京極町でも常設型共生型居場所

「新しい介護予防・日常生活支援総合事業」の動きとして、北海道では28年度から地域の住民が自主的に生活支援サービス（見守り、雪かき等）を立ち上げる活動に関する研修「生活支援サービス充実支援事業」が実施されています。



南側の窓から明るい日差しが射しこむ支えあいステーション

京極町社会福祉協議会では住民寄付を得て、平成29年3月に共生型地域福祉拠点「地域支え合い拠点（ささえあいステーション）」を開設、これを機に上述の研修を開催。3月29、30日に住民を対象とした担い手勉強会と生活支援サービスをコーディネートする専門職の研修会へ招かれ、知多の取り組みを紹介させていただきました。

羊蹄山を背景に美しい自然が広がる京極町では、農業従事者を主とした人口は約3,000人。日常生活に必要な食料販売店やガソリンスタンド等も少なく、ちょっとした生活のサポートを行うシルバー人材センターも閉鎖され、障がい者の就労場所や社会参加も困難、且つ高齢化が進む中での生活支援サービスの担い手育成は喫緊の課題です。

研修初日、空港から片道約2時間の道程を運転しながらその暮らしぶりを解説して下さった一般社団法人Wellbe Designの篠原辰二さんは、札幌を拠点に全国各地で地域福祉の推進を図る活動を展開されており、同法人理事である日本福祉大学全学教育センターの佐藤大介助教の縁で



担い手勉強会の意見を形にするアイデアを話し合う専門職ら

招かれました。

代表から0～100歳の共生型居場所で日々展開される境目がない支援から町内会へ派生する知多の事例を紹介した後、引っ越しを機に孤立化した自分が社会へつながるきっかけになった手づくりカフェAdacodaの立ち上げから、継続する運営の秘訣をお伝えしました。翌日のコーディネーター研修では、話を丁寧に聞くところからの信頼づくりと頑張りすぎるコーディネートが依存関係を生み、その人が社会へ発信する力を損ねてしまうことの難しさもお伝えしました。20代の職員を中心にチームで生活支援コーディネーター・共生ステーションコーディネーターを担うしくみづくりにチャレンジする京極町の取り組みから学ばせていただきました。（市野）

平成29年度 会員交流会 通常総会のご案内

5月25日(木)
知多市市民活動センター2階会議室

《会員交流円卓会議》

- 時間 10:00～12:00
- テーマ どうする？地域福祉の担い手
- 内容 昨年行われた「ちた地域のNPOで働く人の実態調査」の報告を踏まえて、人口減少社会の中で、0～100歳の地域包括ケアのまちづくりを実現するための担い手(専門職・住民互助・近助)の確保・育成について円卓会議を開催する。

《通常総会》

- 時間 12:00～13:00

●申込み、詳細等は同封チラシをご覧ください

■ちた未来塾報告会



「知多と半田との交流や合同企画も考えたい」と、はんだU22研究所の水野所長の前向きな発言に沸く会場

平成28年8月にスタートしたちた未来塾の報告会を3月11日に開催、塾生を含め30人が知多市市民活動センターに集った。

初めに、ゲストの水野翔太さんから「このマ

チを、ここから変える。」と題して名古屋わかもの会議の活動概要と活動を始めるに至った想いと経緯を語った。また、同メンバーで知多市在住の中村鈴菜さんからは、高校生フェスティバルや震災復興ボランティアを機に地域に関心を寄せ、自分らしさを発揮できる場を求めて自ら名古屋わかもの会議に参加、今ではメンバーとして参画するようになり視野が広がったと伝えた。

続いて、今回参加したことで個々に感じたことを塾生が報告、学校の中とは違う自分らしさを引き出せた、大学生活にも変化が出てきた、次年度はサポーター役として関わっていききたいなどの頼もしい意見もあった。

参加者全員が若者のチャレンジに対して、大人の応援のカタチを話し合い、サポート体制づくりの新しい出発点として一人ひとりが自ら動くきっかけの出会いの場になったと共有した。(市野)

【29年度ちた未来塾開催決定！塾生募集】

- ◎募集開始 5月1日～6月2日(定員10名)
- ◎対象 知多市に関心がある高校生～20代
- ◎説明会日時 6月16日(金) 18:00～
会場 知多市市民活動センター

■フードバンクプロジェクト@ちた

3月24日北生涯学習センター(名古屋市)にて開催されたセカンドハーベスト名古屋(以下、2HN)を支える会による2016年度事業報告会へ参加した。

2HNの主力3活動のうち2活動について、まず2015年4月に施行された生活困窮者自立支援法により各自治体に設置された相談窓口と連携し、生活に困っている個人への食品支援を行う、行政と連携した個人支援活動は、東海市、南知多町以外の4市4町と2HNが協定書を締結し、支援対象者の状況に合わせた食品を依頼日の翌日に届けるサービスを確立した。

次に、孤立・困窮する高齢者を支えることを目的にサロンへの食品配布を行う高齢者コミュニティ支援活動は、1社あたりの寄付量の減少や企業が送料を負担して配送する食品が減少したこと、生活困窮者支援を優先するため縮小した。

今年度、知多福祉相談センターと提携することで知多5町の生活困窮者支援の取組が進められていくとして、2HNによる意見交換会を8月30日夜知多市市民活動センターにて開催する。(市野)

■日本福祉大学SLバスツアー

3月27、28日の2日間にわたり、日本福祉大学社会福祉学部新2年のゼミ生96人、教員6人によるサービスマーケティングツアーを開催、1日2団体を3コース設定し延べ12箇所のNPOを見学した。

原田ゼミでは地域福祉サポートちた・南粕谷ハウスを訪れ、法人の設立経緯から知多半島内の福祉団体がネットワークで繋がっていること、地域課題を解決する為にそれぞれの団体が担う活動が



南粕谷ハウスにて、サロンの役割について学ぶ学生ら

広がっていったことを学び、南粕谷ハウスでは「高齢化が進んでいる事はマイナスではなく、それぞれの特性を活かして活動を広げみんなが楽しんでいく。これからは様々な世代の交差点となる居場所を目指す」との意気込みを伺った。

学生の心に残ったのキーワードに「信用」「地域とのつながり」「ボランティア」「居場所」が挙げられた。現場を見聞きすることで、学生の学ぶ意欲・好奇心が高まった。(江端)

■「住民歴書」で支え合いづくり研修



「介護保険の本質は自立支援」と語る酒井氏の話に聞き入る参加者

4月8日(土)知多市福祉活動センターにて、当事者を主体とした地域資源開発や支え合いづくりの仕組みを伝えている「ご近所福祉クリエイター」酒井保氏を迎えて「地域

住民と支え合いの関係を築くために」をテーマに研修を開催した。NPO、社協、民生委員や生活支援体制整備に関わる担当者を対象に22名が参加した。

支援者がやるべき自立支援は、住民のできることを引き出し、役割を見つけ、評価され、存在が認知されることが必要であり、まずは住民の生態系を明らかにし、居場所＝お宝の存在を発掘し、意味づけ、価値を専門職と共有することで支え合いのまちづくりを進めていくことに繋がると語った。

10月7日(土)東浦町文化センターで東浦町住民対象に講演会が行われる予定。問い合わせ先は認定NPO法人絆まで。TEL0562-83-7563(竹内由)

■第144弾 定例NPO現場見学バスツアー

今春新たにNPOへ関わる人のための基礎講座として4月25日「NPOってなあに？」をテーマに開催、NPOや行政の職員7人が参加した。午前にはNPOの基礎知識やちた地域の現状を学び、手づくりカフェAda-codaで昼食の後、(N)ゆいの会と(認N)絆を訪問した。

ゆいの会は「ともに生きる地域社会」を理念に、「助けあい、学びあい、育ちあい」の場を市民に提供している。28年度より、知多市生活支援体制整備事業を委託された。全国的にもNPO法人への委託は珍しく、これまでの実績の証として、住民の主体性を活かし協働で進めている。

絆は「困った時はお互いさま」の心で、地域に根ざした実践を行う。デイサービスの中で使う通貨「キッズ」は、利用者が通帳で自己管理できる仕組みになっている。「できないこと」ではなく「できること」を活かして自立に向けた支援を行っている。



絆の山崎紀恵子代表理事の案内のもと施設内を見学する参加者ら

見学後、「別のNPOを見学し、理念に触れることで視野が広がった」「課題に柔軟対応できるのがNPOの長所」と振り返った。(関、久保)

【次回の開催予告】

- ◎日時 7月21日 9:30～16:00
- ◎テーマ 「NPO・行政・地縁との協働」
- ◎見学先 ①知多地域成年後見センター②はっぴいわん③あかり

ふくし職員ルーインタビュー

大治町社会福祉協議会 相談支援事業部 係長
大治町地域包括支援センター大嶋淳司さん



平成11年に入職し、現在の包括支援センターの前身である在宅介護支援センターへの配属より、生き字引的存在として現職に至る。今年度は認知症初期集中支援チーム、生活支援コーディネーター第1層に重点を置いて取り組んでいく予定。

一昨年から研究会を立ち上げ、協議会を開催した昨年の成果は、メンバーが生活支援サービス担い手養成研修の講師を務めるカリキュラムが構築できたこと。また、コミュニティと名鉄の両バス沿線の買い物やシルバーワンコインサービス等地域資源マップの作成を完成させたことや、特別養護老人ホーム内のワンフロアを地域サロンに提供し始めるなど協議会がつながり始めた実感する。

子育て世代の転入が多く人口増にある大治町には日本最古の眼科医療施設として知られる明眼院など、18の神社仏閣が点在する歴史ある街並み。むかしながらの助けあいやお寺、居酒屋など自然に集まるサロンで認知症予防や健康にまつわる出前講座を開催し、地域と職員との接点づくりも積極的に働きかける。

権利擁護業務に関わることで、人は学力やお金ではなく人を巻き込む力が問われていると感じている。ゆえに2人の愛娘には考える子に育ってほしいと笑顔で語った。(市野)

新会員紹介

ご入会ありがとうございます

- 【準/団体】 知多市東部地区民生・児童委員協議会
- 【正/個人】 佐藤 仙務 様
- 【正/個人】 田中 嵩久 様
- 【正/個人】 隠岐 昌宏 様

会費納入のお願い

平素は、当法人の活動にご賛同いただきまして誠にありがとうございます。29年度も引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。なお、振込用紙を同封させて頂いておりますので、ご利用ください。

- 正会員/（団体）15,000円（個人）5,000円
- 準会員/（団体）5,000円（個人）3,000円

サポちた インフォメーション

会員さんなどから集まる情報をお知らせします。お気軽に情報をお寄せ下さい。

■ゆいの会 文化祭

〈日時〉5月13日(土) 10時～14時30分
〈場所〉知多市新知字西屋敷22番地2
〈内容〉さをり織りなどの体験コーナー、陶芸などの即売会、オカリナやアルパ(ハープ)の演奏、産直物産市、骨密度・体組成測定コーナー、ビンゴゲーム、喫茶・お食事コーナー(クレープとガレットやおいしいコーヒーの移動販売車も来ます)どなたでもご来場できます！
〈問合せ〉(N)ゆいの会 tel:562-32-5906

■もやい 20周年記念・ふれあいたい祭り

〈日時〉5月27日(土) 13時～14時45分
〈場所〉阿久比町勤労福祉センター(エスペランス丸山)
〈参加費〉無料
〈内容〉ママ'sカルテット、かつぽれ踊りの会、チアキッズGOGO、駄菓子屋さんごっこ

■ネットワーク大府 福祉研修講座 募集

○第18回行動援護従業者養成研修

〈日程〉5月21日、27日、6月4日、11日、
(修了式)6月18日

○介護職員初任者研修

〈日程〉5月23日、6月1日、7日、8日、9日、12日、
14日、15日、17日、23日、24日、30日、7月1日、6日、
(一日施設実習)6月7日～13日
(修了式)7月18日

〈会場〉ネットワーク大府 研修室

〈問合せ〉(認N)ネットワーク大府

■サービス・ラーニング全国フォーラム 2017

全国フォーラム 日本福祉大学東海キャンパス
〈日時〉5月20日(土) 13時～17時40分
〈会場〉日本福祉大学東海キャンパス
〈参加費〉3,000円 〈お切〉5月14日
〈問合せ〉地域福祉サポートちた(市野)

■成年後見サポーター研修講座 @南知多町

認知症の高齢者、また知的障害や精神障害で判断能力が不十分な方々の権利や財産を守るための成年後見制度。制度活用のための6回講座を開催。

〈日時〉6月9日～7月14日(毎週金曜日)
13時半～16時

〈会場〉南知多町総合体育館 第2会議室

〈受講料〉1,000円(全6回分資料代)

〈申込開始〉5月8日より

〈申込問合せ〉(N)知多地域成年後見センター
tel:0562-39-2663

■知多半島ろうスクール入学のご案内

(平成29年度あいちモリコロ基金助成事業)

「知多半島ろうスクール」は、正しい法律知識を身につけて、今後の自分の暮らしについて考える学校です。

〈日程〉7月26日(水)～10月18日(水) 全7日間

〈時間〉13:00～16:30

〈会場〉知多市市民活動センター会議室

〈入学金〉2,000円 各講座1,000円

〈問合せ〉(N)知多地域成年後見センター

■あいちならではの物語をつむぎ出す「イロリバ」2017

あいちコミュニティ財団では、3月末までの4年間で愛知県内の地域課題に立ち向かう53の解決策を応援。本イベントでは、助成先がボランティアスタッフとつむいだ「フォーストーリー」とともに、解決に挑む中で育まれた感動的な「物語」をスピーチする。

〈日時〉6月25日(日) 11時～14時半

〈会場〉名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス 北館 1F
(ムーガーデンテラス)地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田駅」から徒歩約3分

〈申込問合せ〉(公財)あいちコミュニティ財団(担当:佐藤、山田)E-mail: office@aichi-community.jp

tel:052-936-5101 fax:052-982-9089

NPO現場見学バスツアー



NPO・行政・地縁との連携

〈日時〉7月11日(火) 9時半～16時
〈定員〉26名
〈参加費〉5,200円(昼食代別途)

(担当:安藤)



特定非営利活動法人

地域福祉サポートちた

478-0047 知多市緑町12-1
知多市市民活動センター1階

Tel 0562 (33) 1631
Fax 0562 (33) 1743